

学校経営推進費 評価報告書（2年目）

標記について、下記のとおり提出します。

1. 事業計画の概要

実施課程名	支援学校 生活課程
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「つながる」カフェプロジェクト～MURANOキャリア教育プランを具現化するために～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	「就労を通じた社会的自立」をめざした『キャリア教育』の推進～教育課程と各教科の指導計画の充実～ 卒業後に、前向きに生きていく力を育成する：ライフキャリアの視点に立ち、「MURANOキャリア教育プラン～働くためにつきたい力～」を定め、それらをねらいの軸として、各専門学科「フードデザイン」「プロダクトデザイン」「リビングデザイン」、職業共通（清掃・流通サービス・カフェ・キャリアデザイン）、各教科（国語・数学・社会・理科・芸術（音・美・書）・保健体育・家庭・外国語・情報）を効果的に教育課程上に位置づける。お互いの授業が「つながる」こと、学習集団の編成を工夫することにより、生徒が社会で自立して暮らすために必要な学習内容の精選と、社会と「つながる」学びの場の創造に努める。
事業目標	平成27年度の開校年度から3年間履修する「接客サービス（カフェ）」を、校舎内の閉じられた特別教室の施工から開かれたオープンカフェ店舗へと整備することで、地域住民や企業事業主との出会いの場とし、知的障がいのある生徒の理解を広く継続的にアピールし、地域社会資源の発掘や職場実習先の確保などの外部連携を強化する手段とする。 もって「就労を通じた社会的自立」を望む生徒の就労率アップをねらう。 また、中期目標に掲げる「MURANOキャリア教育プラン」で強く推奨する「社会につながる授業」を教員全員が常に意識し、それを具現化するシンボルとしてこのカフェエリアを機能させ、「生徒の自立支援」を促す教育実践を研究・発表する場とする。 生徒は、教員・保護者を顧客とする第1学年の履修段階から、第2学年の地域住民・企業事業主を顧客とする段階へ、そして第3学年では、校外での出張カフェサービス提供段階へと学びをリアルな社会へとステップアップさせ、一般社会人からの評価をもらうことで望ましい職業観と勤労観を育む事業とする。接客サービスの評価のみならず、専門学科で製作した製品を使用・販売したり、制作作品を展示する場として活用することで、第三者の評価をいただき、改善点を見出しながら自己肯定感や達成感を得る取組みの中で、主体的に行動する人材の育成を図る。
整備した 設備・物品	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンカフェエリア専用の通用門と屋外掲示板の設置・屋外ウッドデッキの増床工事 ・ロールスクリーン設置・校外来客数に対応する机椅子・コーヒーマーカー等の消耗品増強 ・リビングデザイン科（クリーニング分野）が「おしぼりサービス」をする温熱機器 ・フードデザイン科（食品加工分野）が「パン販売」をするパン製造機器 ・同科（農園芸分野）が通用門アプローチを緑化する「ラティス付プランター」設置。 ・芸術科（書道・美術）が、カフェウォールに生徒作品を展示するための吊金具と額縁。 ・プロダクト（窯業分野）が「コーヒーマグ」製作をする陶土類
取組みの 主担・実施者	<ul style="list-style-type: none"> ①職業共通科目「1～3年接客サービス（共生推進教室含む）」授業主担者：接客訓練。 ②キャリア教育推進コーディネーター首席：各学科・教科の上記連携プラン進捗管理と推進。 ③進路指導部：外部社会資源の開拓と接客講師招聘。 ④管理部「教育課程」の3学年分の完成。⑤支援部：「教育実践報告会」の企画、冊子の発行。
本年度の 取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・H29年度 <ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬より2年生・3年生で授業時間内常時営業開始。（来校者週4回100人/月想定） ・夏までに農園芸分野がカフェ通用門のアプローチの緑化。（コンテナガーデンによる飾り付け） ・枚方支援学校の児童・生徒および地域住民を定期的に招待。（毎月1グループずつ） ・民間企業N社等のコーヒバリスタを招聘し、生徒対象に毎年講演会開催。 ・アビリンピックおおさか「喫茶サービス部門」への出場。入賞を狙う。 ・プロダクトデザイン科窯業分野製作によるコーヒーマグでのコーヒ提供開始。 ・同科木工分野によるオープンテラスへの製作ベンチ設置。
成果の検証方法 と評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ①教員は、地域住民や企業事業主との出会いの場として利用し、地域社会資源の発掘や職場実習先の確保などの外部連携を強化できたか。 ②来校者がこの取組みを通じて本校の教育方針と生徒への理解を深め、実習協力企業数が増えるなど「就労を通じた社会的自立」を望む生徒の就労率アップに貢献したか。 ③「MURANOキャリアプラン」で推奨する「社会につながる授業」を具現化するシンボルとしてこのカフェエリアを機能させ、「生徒の自立支援」を促す教育実践を研究・発表する機会を創出できたか。 ④時間割編成とシラバスを整備し、第1学年～第3学年へ段階的に社会と結びつける観点で計画的に指導、併せて「コーヒードリッ・接客」研修を民間企業の講師を招聘して実施、接客サービスの技能と知識を習得させることができたか。 ⑤接客サービスの評価のみならず、専門学科で製作した製品を使用・販売したり、制作作品を展示する場として活用することで、第三者の評価をいただき、改善点を見出しながら自己肯定感や達成感を得るような3学科6分野の授業づくりが実践できたか。
自己評価	<p>※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①②校内職員以外の客と外部顧客数を別にカウントすることは、できなかったが、第2年+第3学年の授業内に、本校教職員も含めるとのべ2700人が来店。近隣の支援学校高等部の50人の団体予約利用や職場実習受け入れ企業の方などを多数含んだ。地域連携や本校の教育活動の宣伝効果に加え、3年生の就職先企業確保としても有効な場となり、結果第一期生の就労率は、本校在籍生徒の90%という高い成果を出すことに結びついた。（◎） ③8月開催の「近畿特別支援学校知的障害教育研究協議会」で授業担当者が実践発表し、近畿圏内に広く周知。（◎） ④開校3年目を迎え、第1～第3学年までが「天の川カフェ」店舗運営と外部来校者への接客サービスを目標に、シラバスにもとづき学び、予定通り2年生・3年生で授業内常時営業ができた。その技能と知識を生かし、7月に開催されたアビリンピックおおさか「喫茶サービス部門」へ第2・第3学年の生徒が3人出場。全員が上位入賞できた。さらに第1学年においても、年度末には校内の教職員を顧客に見立てた営業形態をとれるまで、接客訓練が進んだ。（◎） ⑤カフェエリアでお客様に提供することを意識することで、3学科6分野の授業が充実し、生徒の意欲が高まった。（◎） <p>（◎）（6分野成果詳細：木工：ベンチより変更⇒製品販売展示棚、カウンター収納小箱の製作/窯業：コーヒーマグやメニュー立て、ティーパック置き小皿の製作/福祉：近隣の高齢者介護施設利用者の来店時の介護補助/クリーニング：店員のエプロン・バンダナの洗濯請負/食品加工：パンや菓子類の製造提供/農園芸：カフェ通用門のアプローチの緑化）</p> <p>特記事項：本校の教育実践が毎日新聞に掲載された。</p>
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度は、本年度2人/週程度である地域住民の来店数を増やしていくための広報活動も学習活動の一環としていく。 ・本事業により、「カフェでつながる授業」を関係教科が意識して連携するよう取り組んだ結果、生徒の学習意欲の向上、学びの深化は思った以上で、教員集団の組織活性化をも、もたらしている。この「天の川カフェ」を拠点とした、「接客サービス（カフェ）」の授業実践を含み、開校より3年間の教育実践集（冊子）を編集した。次年度は、これらを本校生通学圏内の市教育委員会及び地域中学校等に広く配付し、本校の「開かれた教育課程」や「主体的な学びを大事にしたキャリア教育の実践」として周知したい。 ・枚方支援学校の児童・生徒及び地域住民を定期的に招待。 ・電話注文・広報活動を通じてのコミュニケーション力向上。 ・2年目に引き続き民間企業講師を招聘して生徒を対象にコーヒードリッ研修受講と接客サービス講演会実施。（第1、第2学年にそれぞれ1回ずつ/年） ・引き続きアビリンピックおおさか「喫茶サービス部門」への出場。（新メンバーでの再入賞をねらう） ・引き続き3学科6分野において「天の川カフェ」とつながる取組みを行う。